

市民のふれあいマーケット

【むさしの青空市40周年記念誌】

『もったいない』から
はじまった。

武蔵野市

目次

武蔵野市長あいさつ 4

武蔵野市消費者運動連絡会
会長あいさつ 5

第1部 青空市を支えた人たち

第1回むさしの青空市スタート 6

リサイクル
不用品をもう一度生かそう 8

ごみ減量、資源化
青空市からごみは出さない 10

農業振興
大人気の市内産野菜！ 12

友好都市交流
9つの友好都市へ旅気分 14

市民パワー
市民がつくる 市民のおまつり 16

ふれあいまつり
楽しい秋の一日 18

青空市名物
銭湯画を描いていたのは？ 20

第2部 座談会

むさしの青空市から伝えたい 22

資料編

武蔵野市の消費者行政の
主な出来事と青空市の沿革 28

第39回むさしの青空市案内ちらし 30

第39回むさしの青空市開催要領 32







むさしの青空市の 「市民参加」の理念を引き継いで

武蔵野市長 松下 玲子

むさしの青空市は、昭和56年の第1回から令和元年の第39回までの、およそ40年にわたり、市民参加による実行委員会方式で運営されてきました。

これまで支えていただいた役員、実行委員会、友好都市を始めとして、参加していただいた市民の皆さまに心から感謝申し上げます。

むさしの青空市は、リサイクル・リユース運動を中心としたものからスタートし、回を重ねていく中で、時代に合わせて変化をしてきました。ごみの減量・資源化、農業振興、友好都市交流などの目的を担い、1万人を超える市民が集う秋のおまつりとして親しまれてきました。

しかし、運営に携わっていただいた役員の方たちが高齢化し、新たな担い手の不在から、実行委員会の運営が困難な状況となってしまいました。

そこで、役員や実行委員会に携わっていただいた方や、市の関連部署の部長から成る「むさしの青空市のあり方検討委員会」を設置し、委員の皆さまにご検討いただきました。

検討委員会では、これまでむさしの青空市が担ってきた役割や成果、理念等を再確認し、その理念を継承するイベントの位置づけを整理していただきました。加えて、その理念の中でも「市民参加」の部分を引き継ぐ、新たな秋のイベントの創設をご提案いただきました。

これを受けて、武蔵野市第六期長期計画に掲げる「“まちの魅力”を高め“豊かな暮らし”を支える産業の振興」という目標を踏まえつつ、まちの魅力を創出する新しい事業を検討してまいります。

むさしの青空市は、第39回をもって終了となりますが、その理念を次の新しい事業につなぐバトンとして、記念誌を発行し、むさしの青空市のそれぞれの持ち場で活躍してくださった、皆さまの熱意をお届けしたいと思います。



むさしの青空市をふり返って

武蔵野市消費者運動連絡会 会長 菊地 公子

第1回青空市は、昭和56年11月22日に開催され、以来令和元年まで39年間毎年開催され、市民の皆様には、秋のイベントとして定着。毎年足を運んでくださるファンも沢山いらっしゃいます。

第1回の青空市開催当時、武蔵野市は三鷹市と共同でつくったふじみ清掃工場に「武蔵野市のごみを持ち込むな」という地元住民の反対のため、新たにごみの自区内処理をせまられ、処理場建設のために市民会議で検討されていて、ごみの減量は避けて通れない課題でした。

市民の方々も資源活用の方法がわからず、各家庭の押し入れに捨てられない不用品が詰まっているような状況でした。そんな中、不用品を無償で提供してもらい、回収し、値付けをして市民の皆様に買ってもらい、その収益は市民社会福祉協議会に寄付するという仕組みを、消費者運動連絡会が市と協同して考えだしました。

はじめのうちは、不用品の回収というシステムが一般的ではなかったので、家庭から出される不用品の品質は高く、青空市に出品されると公園を埋め尽くすような人々が訪れ、競って購入され、その利益は一回100万円以上となり、全額が社協に寄付されました。

家庭に眠る不用品の活用方法を知り、活用の仕方を体験した市民のみなさんは、徐々に自分たちの手でリサイクル・リユースするようになり、不用品のリサイクルは、市民の方々におまかせできるようになりました。

青空市は新たに、“市民が直接参加する資源活用、ごみ減量活動の場、市民団体の活動交流、友好都市との交流の場”となり、続いていきました。

39年という長期間続いた青空市ですが、支える市民団体の数も減少し、実行委員会メンバーも高齢化し、このままのかたちでの青空市の存続は難しくなってきました。

しかし、『資源活用』『ごみ減量』の理念を、参加する皆さんが楽しみつつ実行する」という目的を十分に達成したと思っています。

いま、青空市は閉幕しますが、これからは「気候変動」による環境変化が憂慮されます。この事態を市民が力を合わせて、自ら行動して環境をまもる、そんな目的のイベントが今後にも必要ではないかと思っています。

青空市を支えた人たち

第1回むさしの青空市スタート

昭和56年11月22日（日）、第1回むさしの青空市が開催されました。会場は旧アメリカンスクール体育館とその周辺。昭和48年1月に米軍から返還された、今の『むさしの市民公園』です。公園の隣の体育館では、農産物品評会も行われました。

昭和55年8月に完成した新市庁舎を背景に、たくさんのリサイクル家具や家庭から提供された衣料品などを販売するテントが並びます。





なにを目指すのか？ なにをやりたいか？

大橋 一範さん

初代の青空市実行委員長になったのは、当時、武蔵野市の長期計画策定委員に委嘱されていたことがきっかけだったでしょうか。

他の会でも代表になることがあります。私は運営を仕切ることはあまりしません。

青空市でも、最初に実行委員会の皆さんに、このイベントは「なにを目指すのか？」、「なにをやりたいか？」というのをメモで書いてもらい、似た意見ごとにグループ分けし、責任者を決めてもらって、グループごとに自主的に動いてもらって、あとで決まったことを報告してくださいねという方式でした。委員長の仕事は、開会宣言をするだけです。

実行委員会のメンバーは、ポジティブで責任感の強い人たちが集まっていたから、それぞれのグループにお任せをしていけば、テキパキと事が進んでいきます。特に、リサイクル品の販売を中心に担っていた消費連(武蔵野市消費者運動連絡会)のマンパワーには圧倒されました。

青空市のリサイクル品の販売は、フリーマーケットのはしり。イベントでのごみの分別も青空市から広がっていきました。実行委員会のメンバーのネットワークと創意工夫で、市民に親しまれるおまつりとして、長く続いているんでしょうね。



むさしの青空市の
第1回～第16回の実行
委員長
タウン誌「週刊きちじょうじ」編集長、「武蔵野
ブラショフ市民の会」
理事長

不用品をもう一度生かそう

『自分の家庭ではもう不用だ。でも、捨ててしまうのはまだ惜しい。そんな物がどこの家庭にもあるのではないのでしょうか？出品できるものは、家具、衣類、雑貨、古本など、まだ使えるものならなんでもOK!』。市報での呼びかけにたくさんの物が出品されました。不用品に再び命が吹き込まれました。



リサイクル品の値付け作業



手作り小物販売



リサイクル家具販売



ものは三年経てば役に立つ

宮寺 桂次郎 さん

シルバー人材センターの家具班に在籍して、市民から回収された家具の修理を担当していました。昭和初期の家具はいい木材を使っているものも多く、修理をすれば見事によみがえります。最近の量販店で販売している家具とは違いますね。韓国などの黒檀や紫檀の棚が持ち込まれたこともありました。

「ものは三年経てば役に立つ」という父の教えがあって、物を簡単には捨てられません。回収された物を目の前に、どうやって直すか考えるのが楽しい。壊れたものを再生させる喜びがあります。

青空市には、平成22年から参加しています。翌年からは班長でした。持ち込まれた家具の中で、青空市用に、これなら売れるなという作戦を考えて、目玉商品として出していました。それをお客さんもよくご存じで、開店前に人がたくさん並びました。桐のタンスは6千～1万円くらいだったのでしょうか。よく売れました。お客さんも目が肥えていて、良いものはすぐ売れてしまいます。

家具の他に、陶磁器や敷布など、小物班の手作りの小物を売っていました。小物類も人気で、お客さんがどっと押し寄せるので、配置に気をつけてお客さんが怪我をしないよう、安全対策にも気を配りましたね。

本来捨てられるものを再生し、それを多くの方に買っていただき、また使ってもらえることが青空市での喜びです。

*シルバー人材センターのリサイクルセンターは令和3年8月に閉店しました



定年後、DIYアドバイザーの資格を取り、平成21年にシルバー人材センターに入会。リサイクルセンターの家具班に在籍。

青空市からごみは出さない

青空市には毎年1万5千人前後のお客さんが来場します。人や出店の賑わいに、比例して増えてしまうのがごみ。環境にやさしいおまつりを目指して、ごみの減量、資源化に実行委員会一丸となって取り組みました。



子どもごみパトロール隊は会場の中やステージで、ごみの分別を呼びかけたり、子どもコーナーでの環境クイズで大活躍

子どもごみパトロール隊出動！

小境 範子 さん

「らっこの会」は、青空市にリサイクル品の出店者として参加していました。終了後の片付けで、売れ残った衣類、食べ物を入れたトレイや残飯などの大量のごみが出ていることに驚きました。「青空市からごみを出してはいけない」と、実行委員会で何かできないかという話になって、当時の実行委員長の大橋さんから、「子どもたちと何かやったらいい」と言われて、知り合いの子どもや「ボーイスカウト武蔵野」に声をかけて、青空市のごみの減量に取り組むことになりました。

第13回（平成5年）に結成された子どもごみパトロール隊は、「青空市のごみは分別・回収でくるくるリサイクル」、「リデュース・リユース」などのプラカードを持って、舞台や会場内を巡回して呼びかけたり、「クリーンむさしのを推進する会」などの団体の大人たちと一緒に、ごみ回収ボックスの前に立ったりと、青空市のごみを減らすという彼らなりの使命感が伝わりました。子どもコーナーの環境クイズも楽しんでいました。

スタート当初は、環境教育という言葉も一般的ではなかった頃。これをきっかけに環境問題をテーマにした「木のお願い」と「木のお願いをかなえるために」というタイトルの手作り絵本を描いた子どもがいました。参加した子どもも大人も、ごみを考えた一日でした。



コミュニティカフェ＆スペース「クラフトハウスぱく」を運営。「らっこの会」代表、「夫婦別姓選択制をすすめる会」事務局。



回収所ではごみを細かく分類

青空市はただのおまつり？

白石 ケイ子 さん



生ごみたい肥をきっかけに「クリーンむさしの会」(クリーンむさしの)の活動に参加

おまつりが終わった後の、飲食用プラスチック容器などのごみの多さに衝撃を受け、プラスチック削減に取り組むようになりました。

クリーンむさしのでは、平成15年から、まつりのごみ減量にむけて活動を開始しました。青空市でも、平成16年からプラスチック容器に代わるものとして「バガス」*を採用しました。回収したバガスは、グリーンパーク遊歩道沿いの落葉堆肥場に穴を掘って細かくちぎって埋めました。自転車の後ろに積んで何往復したことか。4,100枚を使用した年もありました。

プラスチック容器1枚あたり2~3円に対し、バガスは5円と高く、使いづらいという苦情もありましたが、出店者の理解を得て、続けることができました。バガスは更に高騰し、リユース食器の変更を検討しましたが、実施するには至りませんでした。

レジ袋は、家庭に溜まっている古いものをコミュニティセンターで集めてもらい、きれいに伸ばして畳んで700枚位を用意して、来場者に配ったり、出店者に使ってもらいました。翌年には、友好都市の方が、同じように回収したレジ袋を持ってきて使っているのを知り、私たちの思いが伝わったなあとうれしくなりました。

割りばしは、青空市終了後、日が暮れていく中で洗って、干して、箱につめて製紙会社へ送りました。

近年、クリーンむさしのの活動は、おちゃわんリサイクルと生ごみたい肥用のばかしの提供でした。おちゃわんは家庭から出てくる食器をコミュニティセンターにためておいたもので、一日で段ボール20~25箱分が、来場者の方の手に渡りリユースされています。

どの作業も「手間」、「暇」が掛かり大変でしたが、ごみが減っていくことが実感できるので、うれしく、楽しく、がんばることができました。

*「バガス」…サトウキビの搾りかすで作られたもので、土に埋めるとバクテリアによって3か月ぐらいで分解され土に還る。

大人気の市内産野菜！

青空市の会場では、農産物品評会に出品されたよりすぐりの市内産農産物の展示と即売が行われていました。また、市内産野菜をたっぷり使った宝船は圧巻です。展示した野菜の宝分けには、長い行列ができます。第1回目から続く、来場者に親しまれているコーナーです。



市内産うどを使った宝船



旧アメリカンスクール体育館で行われた農産物品評会



宝分けの準備





農産物品評会是一年の集大成

大坂 新一さん

第一回青空市から参加しています。当時、武蔵野市の農協青年部が立ち上がったばかりで、明治神宮の新嘗祭に宝船を奉納したり、天皇ご即位のときに、宝船をトラックにのせて銀座をパレードしたり、メンバーも若く、パワフルに活動をしていましたね。消費者運動連絡会と協力して市内の小学校などで野菜の直売なども行いました。第一回青空市のときには、その年に最優秀賞を取ったうちの里芋で、けんちん汁を作り、ついた餅と一緒に来場者に振る舞いました。

青空市で披露する宝船は、白菜80個、ブロッコリー、カリフラワー、大根、ニンジンなどをそれぞれ100個以上使っています。他では帆にネギを使うことが多いのですが、武蔵野市は名産のうどを使うことが特徴です。その野菜を「宝分け」として販売するのですが、お客さんが長い行列を作っていましたね。

青空市で、農産物品評会出品の市内野菜の展示会と即売会を同日開催しています。品評会は、農家にとって一年の集大成です。土づくりから始まり、品評会の日程に合わせてベストな状態のものを出品するために、一日おきに種をまいたり、試行錯誤の連続です。

都市農業を取り巻く環境はとても厳しいですが、その中で苦労して育てた野菜を皆さんに味わっていただき、喜んでもらえることはうれしいです。



武蔵野市農業委員会
委員
パープルファーム武蔵野(関前)を長男慶典(けいすけ)さんと経営
現在は、ブルーベリーの生産を行い、7、8月には摘み取り体験などしている。

9つの友好都市へ旅気分

岩魚塩焼き、ます寿司、おやき、くじらコロッケ、ひつつみ、カニ汁、玉こんにゃく煮、地酒、地ビール、りんご、みかん、レモン、米、もち、野菜、ゆるキャラグッズなど、友好都市の特産物が並びます。これを目当てに来場されるお客さんもたくさんいます。ステージでは、むぎや節（富山県南砺市）や早池峰しし踊り（岩手県遠野市）が披露され、郷土色が青空市に彩を添えます。



富山県南砺市
NANTOくん



長野県安曇野市
みずん



岩手県遠野市
カリんちゃん



鳥取県岩美町
いわみん



広島県大崎上島町



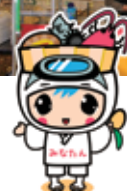
長野県川上村
レタ助



山形県酒田市
もしえのん(左)
あののん(右)



新潟県長岡市
おぐりん



千葉県南房総市
みなたん



広がる友好都市ネットワーク

笠原 哲夫 さん

姉妹都市として富山県利賀村(現在は南砺市)は、第1回青空市から参加していました。テントでは、岩魚塩焼きや五平餅、野菜などの物産品を販売しています。

最初の頃は、生きている岩魚を武蔵野市の皆さんに見ていただきたくて、生けすを借りてトラックで運んだそうです。まだ北陸自動車道が全線開通していなくて、岩魚が生きているかどうか心配で、何度も止まって酸素を入れたりしたので、到着するまで7時間以上掛かったと聞いています。毎回、岩魚塩焼きは人気で、最高で800匹を売った記録があります。助っ人隊として、武蔵野市民のボランティアや職員が岩魚の串刺しや炭焼きを手伝ってくれました。



南砺市役所市民協働部
市民課利賀市民セン
ター統括
平成7～9年交流担当
で、武蔵野市との様々
な交流イベント等を担
当した。

舞台では、富山三大民謡の一つ・五箇山民謡の「むぎや節」を披露しました。利賀村むぎや節保存会の青年団、婦人会が踊り手として参加しています。出演後には観客の方と一緒に記念撮影したり、会話が弾んでいました。



青空市に参加していた友好都市の千葉県南房総市(旧白浜町)や広島県大崎上島町(旧大崎町)とは、お互いの地元のイベントに参加するなど、交流を深めることができました。青空市に参加した友好都市は、南砺市と武蔵野市だけではなく、友好都市ネットワークでつながっています。

2年毎に武蔵野市民団交流ツアーで、利賀の四季折々の大自然と利賀のごっつおを堪能していただいています。相互の市民がもっと深く通じ合え、交流が今後ともできる限り続くことを期待しています。

市民がつくる 市民のおまつり

青空市は第1回目から市民参加の実行委員会により運営されています。毎年、60ぐらいの団体が参加し、リサイクル・日用品コーナー、食べ物コーナー、修理・P Rコーナー、ステージプログラムなど、様々な趣向を凝らしたテントが並びます。

各団体の売上金の一部は、市民社会福祉協議会への寄付や東日本大震災復興支援にあてられています。



包丁研ぎコーナー



ぬかるみの中での販売





環境にやさしいおまつりを

日置 茂さん

春は「桜まつり」、秋は「青空市」と郷土のおまつりとして定着しましたが、回を重ねる中で、青空市の目指すものは少しずつ変わっていきました。

初期の青空市のメイン事業は、リサイクル品の販売でした。市民から家庭での不用品の回収を行い、市役所の8階の大会議室の天井に届くほど、いっぱいの品物が集まりました。それを消費者運動連絡会のメンバーが何日もかかって仕分けと値付けを行いました。当日はバーゲン会場さながらの大盛況でした。フリーマーケットのルーツです。シルバー人材センターの大物家具も人気でしたね。



元武蔵野市職員。平成6年～13年（生活文化課）と平成20～23年（商工経済課）に青空市を担当する。

やがて、出店数が増えるにつれ、膨大なごみの発生が問題となってきました。実行委員に「クリーンむさしのを推進する会」が加わり、「青空市からごみは出さない」というスローガンのもと、リサイクル可能な容器の使用や回収した割り箸や竹串の資源化など、様々なことに取り組みしました。

青空市で苦労したことは、食品の衛生管理です。保健所の臨時出店許可が厳しく、人気の餅つきはできなくなり、指導を受けることもしばしばありました。

あとは、天候。「青空市」というくらいなので、晴れの日で開催が多かったのですが、雨が降ると、公園がドロドロになって、砂をまいたり、トラックのわだちを直したりと大変でした。テントを張るときに打った杭が、水道管に穴を開けてしまい、水が噴き出してしまったということもありました。方々からお叱りをいただくこともありました。特に安全には気を使いました。幸い大きな事故は起きていません。

リサイクル、リペアー、リユースへの取り組みなど、環境にやさしいおまつりを武蔵野市から発信できたことはよかったと思います。

楽しい秋の一日

リサイクルコーナーですてきな小物発見。売り手の元気な声が飛び交う友好都市のブースで特産品のお買い物。たべものコーナーにはおいしそうなのがいっぱい。ほろ酔い気分でステージを眺める。ステージでは、元気な子どもたちのダンスやフラダンス、音楽の演奏に郷土芸能と盛りだくさん。おまつりの楽しみ方は、百人百様！



林家ライス・カレー子さん



遠野物語めぐり号



ムサシDANくんの健康体操



地元青年部による焼きそばブース



青空市を支える縁の下の力持ち

山崎 文明 さん

もりもり森クラブは、関前の市民の森公園を拠点に活動する緑ボランティアです。

青空市には、公園で作った野菜を提供していました。ミニ大根、ラディッシュやヤーコンなど、当時、あまり店頭に売られていなかった珍しい野菜で、無農薬のものを提供したので大盛況でした。

青空市をきっかけに交流が広がりました。友好都市の担当者と知り合いになって、作ったことのない野菜のことについて、教えてもらうこともありました。

友好都市のテントで20キログラム入りの米を販売していたことがあり、『売れない』と困っていたので、5キログラム入りにしたらとアドバイスをしたこともあります。都会と地方の感覚の違いですね。翌年は5キログラム入りになっていました。

年一回だけれど、毎年顔を合わせる人もいて楽しみでした。

趣味で作詞もやっている関係で、舞台に出る歌手や役者を紹介もしました。消防署の指導でカセットコンロが使えなくなり、プロパンガス用の中古の五徳を青梅まで買いに行ったこともありました。私は上に立って仕切るより、こまごまと動いて、陰で支える方が性に合っています。でも、自分自身が楽しんでいましたし、人に喜んでもらえればなおうれしいです。青空市がなくなってしまうのは、少し寂しいですね。



作詞家。もりもり森クラブ代表。第21～31回むさしの青空市副実行委員長

銭湯画を描いていたのは？

浴場組合の出し物として、いつの頃からか始まった銭湯画。青空の下、2時間ぐらいで大きな銭湯画を描き上げます。すっかり青空市の名物になりました。



秋の紅葉と富士山



「弁天湯」の銭湯画も中島さん作





平成24年青空市 宮城県・松島の風景

日本に3人しかいない銭湯絵師

中島 盛夫さん

青空市では、まずお客さんに「何がいい？」とリクエストを聞いていました。銭湯の仕事でも、突然「華厳の滝」を依頼されたりすることもあるので、お題をもらって描くのはお手の物です。下書きはなしで、背景や山の輪郭を一気にローラーを使って描いていきます。銭湯画というのは、朝から始めて銭湯の営業前までに描き上げなければなりません。青空市のキャンパスは、高さ210センチ×幅540センチで、実際の銭湯画の半分なので、10時に始めてお昼前には完成していました。

青空市の会場は緑も多く、みなさんもおまつりを楽しんでいて、とても気持ちよく描けました。描き終わった後、南砺市の岩魚の塩焼きを食べるのも楽しみの一つでした。

印象に残っている年は、東日本大震災の翌年の平成24年です。日本三景のひとつ宮城県・松島の風景を描いて「がんばろう日本」の文字を入れました。私自身、福島県飯館村の出身で、復興への特別な思いがありました。

私が銭湯画の道に入ったのは、昭和39年、東京オリンピックの年でした。その頃は、銭湯がたくさんあり、毎日毎日銭湯画を描いていました。だんだん、銭湯の数が減り、銭湯絵師も日本に3人となってしまいました。銭湯画でタブーなのは、“秋”と“猿”の絵。“秋”は、客が飽きるから、“猿”は、客が去るからと言われています。第39回の青空市で描いた「秋の紅葉と富士山」は銭湯では見られない貴重な絵です。



最近では、グーグル本社の共有スペースやアディダス原宿の旗艦店の壁画など、銭湯に留まらない活躍の場を広げている。

むさしの青空市をはじめ、武蔵野市の消費者運動を牽引してきた武蔵野市消費者運動連絡会（消費連）は、昭和48年の結成から来年には50周年を迎えます。

むさしの青空市の精神は、消費連が昭和49年に始めた『生活用品交換会』がベースとなっています。当時の様子をご存知の消費連のメンバーの皆様に、消費連での活動、開催当初の青空市のお話などを伺いました。



進行：吉崎産業振興課長

子どもに安全なものを 食べさせたい

■吉崎 まず、皆様の所属する団体の活動や青空市を中心となって担っていた消費者運動連絡会*での活動についてお話をお伺いしたいと思います。

後藤さんの活動される『よつ葉会』は全国的な団体ですが、第1号は武蔵野市だったと伺いました。

■後藤 『よつ葉会』は、生産地の北海道から牛乳を直接仕入れています。活動のきっかけとなったのは、昭和40年代後半頃、北海道の生乳は本州では流通していなくて、牛乳が足りない地域があったり、生産者は収益につながらないという状況だったそうです。

そこで、北海道の生産者と本州の消費者を結びつける『よつ葉会』という団体ができました。

高度経済成長期には、添加物などの食品問題も多く、子どもには安全な良いものを食べさせ

たいという一心で、活動に参加しました。

■吉崎 今でこそ、インターネットで生産者と直接連絡を取ることも可能になりましたが、当時は難しかったでしょうし、産地直送は先進的な取り組みだったんですね。

■菊地 現在、51歳の息子が幼稚園の頃からよつ葉牛乳を飲んでいます(笑)

■吉崎 西上原さんの『さつきクラブ』での活動は、科学的な切り口で、食品に関することに取組まれているように感じます。

どのような主眼をもって、活動されているのでしょうか？

■西上原 食品添加物は悪い物と思われる方が多いと思います。

けれども、加工食品と手作りの食べ物、どちらにもメリット、デメリットがあって、科学的な視点を持って考えてもらおうと思って、大人から子どもまでを対象に活動しています。

◎武蔵野市消費者運動連絡会

オイルショックの経済の混乱に立ち向かうべく、昭和48年12月武蔵野市消費者運動連絡会が結成され、27団体が参加した。生活用品交換会、市内農産物直売運動、ごみ問題、医療110番、物価問題など生活に身近な問題に取り組んだ。



菊地 公子 さん

新日本婦人の会武蔵野支部に昭和57年に入会し、消費連に参加。平成7年から消費連副会長。生活用品交換会、消費生活展、青空市などに関わる。青空市の第21回～31回副委員長、第32回～実行委員長



後藤 幸子 さん

食品や添加物についての勉強会を行い、NHKのTV番組「こんにちわ奥さん」に出演。平成8年にむさしのよつ葉会として、消費連に参加。青空市には平成7年から参加。



西上原 節子 さん

昭和63年に武蔵野市消費者モニターへの参加をきっかけに、東京都消費生活センター多摩東支所の食品に関する講義や実験などの講座に参加する。「さつきクラブ(さつき生活学校)」に平成元年から加入し、消費連に参加する。青空市には平成12年から参加。人権擁護委員

小学5年生から中学1年生を対象とした市のサイエンスクラブでは、食品添加物の学習や簡易テストなどの実験を行なっています。また、消費生活センターの夏休み親子教室では、うどんを手作りすると同時に、小麦粉の特性や市販品との違いを比べたり、何かを作って食べるだけではなく、なぜと考える欲しいと思っています。



平成29年 夏休み親子教室～うどんづくり
講師の西上原さん

青空市のルーツは 生活用品交換会

■吉崎 菊地さんが消費連に参加されたきっかけは何だったんですか。

■菊地 消費連の発足当時には参加していません。

加入していた新日本婦人の会から、消費連の運営委員として、軽い気持ちで加わりました。当時は若かったので、運営の仕事でよく使われていました。

当時の会長の斉藤さん*は、先見の明があって、実行力のある方でした。生活用品交換会*も、押し入れの中の不用品やごみ問題のことを聞いて、じゃあこういう事をやろうといって進めていきました。

武蔵野市は、三鷹市新川の「ふじみ焼却場」で三鷹市と共同でごみ処理をしていましたが、焼却場周辺の住民から騒音悪臭、ばい煙などの公害で議会に陳情が出され、昭和46年には焼

◎斉藤さん

斉藤富佐氏。第2代武蔵野市消費者運動連絡会会長（昭和49年～平成13年）。元武蔵野市議会議員。

◎生活用品交換会

消費者運動連絡会が主催者となり、家庭に眠っている衣類や雑貨を集め、当時の近鉄デパートのピロティなどで販売した。昭和49年10月に第1回生活用品交換会を開催し、取り扱い数量1,414点、総額514,507円。代金は出品者に戻した。平成9年第24回をもって終了した。

却場周辺住民から武蔵野市のごみ搬入を座り込みで妨害し阻止されるということも起こりました。そんな背景もあって、まだ使えるものを活用するための、生活用品交換会が行われることになりました。



第17～19回の実行委員長を務めた
斉藤富佐恵さん(右)

■吉崎 生活用品交換会が進化したものが青空市のリサイクル品販売ですか？

■菊地 生活用品交換会は、衣類と雑貨がメインで各自が持ち込んできますから、青空市のように家具とか大きなものはありませんでしたが、ベースになっています。

生活用品交換会は、市民から一人10点位までの売ってほしいものが持ち込まれ、その場で値札を書いて品物に値付けをしました。交換会で売れなかったものは出品した人に返却し、売れた場合は売上金を渡しました。

始めたころは感謝されましたし、出品した物がなくなってしまった時も、『別にいいのよ』で済んでいましたが、終わりの頃には、『弁償しろ』と言ってくる人が出てくるようになりました。

当時は、リサイクルのシステムがなかったから、リサイクルの場を提供できたと思います。善意で始まったのでトラブルが出てくるとは思いませんでした。

■吉崎 お二人はどのような形で参加されていたのですか？

■西上原 子どもが幼かったので、なかなか参加できませんでしたが、生活用品交換会を近鉄デパートのテラスでやっていた時には値付けに参加しました。

斉藤さんは別格な存在で、『お菓子があるからいらっしゃい～』などと声をかけていただきました(笑)

消費連は、主婦の方々が楽しみながら、生活に密着したことを大事にしている活動だと感じました。

■後藤 消費連のメンバーの方たちは、自分の母よりも年上でしたし、これから生きていく上で大切なことをいろいろ教えて貰いました。



生活用品交換会

青空市でリサイクル意識が浸透

■吉崎 青空市で柱となったリサイクル品の販売コーナーについて、ご苦労されたことをお聞かせください。

■菊地 市内全域からリサイクル品が集まるので、市役所会議室に種類別の荷物置き場を作り、運送業者(日通)が会議室まで荷物を入れた後に、各担当の会員が値付けをしました。

市役所の一番広い会議室の窓が見えなくなるほど、リサイクル品が積み上がりました。

消費連の20～30人のメンバーで、5日間、仕分けと値付け、会場への運搬、当日の販売をしましたが、バス代とお昼のお弁当だけで、ほこ

りだらけになって働きました。

自分たちの収益は、まったく念頭になく、皆さんが喜んで買っていってくれることがうれしかったです。

■**後藤** 回収されるリサイクル品には、中身が入ったままのタンス一竿がそのまま出品されたこともありました。現金や株券、ご遺骨が入っていたりして、びっくりしました(笑)。

もちろん、出品者にお返ししましたが…。

■**西上原** 値段は大先輩方に言われたとおりに付きました。おかげで、値付けが上手にできるようになり、他のイベントでも活躍できましたよ。



旧アメリカンスクールの体育館での仕分け作業

■**吉崎** 当日は、さながらバーゲン会場のようなだったと伺いましたがいかがでしたか。

■**菊地** 午前10時前から並んでいて、群がるような、取り合うような状況でした。衣類は10円～100円ぐらいで、たまに500円というものがあると随分と高いと思いました。古いウェディングドレスが出品されれば、お芝居の衣装にするからと買われる方もいました。

■**吉崎** リサイクル品の販売は平成11年で終了になりましたが、どのような経緯からですか？

■**菊地** 最後の方は、出品されるものの品質が落



平成24年 市民社会福祉協議会より
感謝状を受けとる菊地さん

ちてきました。

自分たちでガレージセールやフリーマーケットに参加したり、街中にもリサイクルショップが増えたからでしょうか。

■**後藤** それまで、売上金は市民社協へ寄付*していましたが、市民社協でもフリマを主催されるようになってね。もう良いものも集まらないし、消費連でやらなくていいんじゃないかとなりましたね。

■**菊地** 青空市のリサイクルを行う目的は達成されて、自分たちでできるようになったことは良いことだと思うのですが、自発的に行うリサイクルと商業ベースで行う場合では、利益を上げないといけないという点では、やはり違いがあると思います。新聞記事に、今はメルカリなどで、リサイクルがより手軽になった分、流通コスト増や飽きたら処分してまた買えば良いという意識が強くなってしまうなど、別の側面が出てきていると書かれていて、考えさせられました。

それでも自分たちがリサイクルの場を提供でき、その後の道筋を示せたのは意義があったと思います。

■**吉崎** 青空市のリサイクル品の販売が終了し、

◎武蔵野市民社会福祉協議会へ寄付

むさしの青空市での売り上げ金を毎年武蔵野市民社会福祉協議会に寄付していた。青空市開始当初は毎年100万円を超える金額を寄付していた。

消費連はおしるこを販売するようになったそうですね。

■**西上原** 菊地さんが北海道から取り寄せた小豆3キログラムを、さつきクラブ会員が手分けして煮ていました。

小さいお子さんがいる家庭でおしるこは手作りしないだろうし、手作りのものを食べるのはほっとするだろうし、お湯を差して完成するようなおしるこじゃなくて、ちゃんと、小豆から煮て作ったものを提供することが大切だと思います。

■**後藤** 良い小豆を使って、手作りで美味しいから、人気がありました。

事前に予約して、お鍋を持ってくる人もいました。消費連は元が取れなくて赤字だねって笑いながら売ってましたよね。



平成30年 おしるこ販売テント

青空市のあり方は？

■**吉崎** 今後の青空市のあり方について、ご意見をお願いします。

■**西上原** 青空市にはいろいろな出店があり、皆がお目当てのものを狙って、買い物をしている様子が印象的でした。友好都市の出店がデパートの物産展のように見えました。友好都市同士、出店者同士の交流がもっとできるような

工夫が必要ではないかなと思いました。

■**菊地** さつきクラブさんはこんにゃくいもの関係で小国町との交流がありますね。

■**西上原** 今度、消費生活センターで手作りのこんにゃくを作りますが、青空市に出店されていた友好都市の小国町(長岡市)からこんにゃくいもの取り寄せています。

■**後藤** 友好都市に加え、商店も入って連携がもっとできるとよいです。ただ、参加した人同士が手を結べるようなあり方がよいです。利益を追う必要がない団体と企業での参加では意識が違うかと思うのですが、形を変えても青空市のようなものができると良いと思っています。

■**菊地** 青空市の当日に参加者同士が交流するのは、中々難しいと思います。本来は実行委員会の場で交流できれば良かったのですが、実行委員会は事務的な連絡の場となっていました。せっかく様々な市民団体が参加しているのだから、自発的に実行委員会にも参加して、お互いを知り、一緒にやろうという意識を持つようになると違うと思います。青空市が終わった後でも、お互いに連絡を取り合うような関係性が作れば良かったです。

■**西上原** 実行委員会方式で作り上げることは、対話が必要で難しい面もあるけれども、すごく良いものができると思う。せっかくのイベントなのにもったいないなと思っています。

■**吉崎** 青空市の後継になるイベントを現在考えているところですが、良いヒントをいただきました。出店する方々の交流、マッチングができる仕組みを実行委員会で作っていきたいなと思いました。

消費連も所属団体の活動もパワフルに取り組んでいらっしゃいますが、皆さんの活動に対する原動力は、どういうところにあったのでしょうか。

若い世代へ発信したい

■菊地 今となっては、なんだったのかと思います。

今の人達は、共働き、働く女性が増えて、地域活動などをする時間がないので、行政の用意してあるところに参加するという印象があります。

私たちは、何にもないから全部自分たちでやらないといけなかった。行政の手厚い支援も助かりますが、苦勞して、自分たちで作り上げるということも必要だと思います

■後藤 すべて子どもの健康を守るためにはじめて活動です。

自分たちの活動は食が中心ですが、活動をしていく中で、いろいろな人の知恵が集まって、子ども会活動にも繋がり、遠野市との交流にも広がりました。

■西上原 活動する場が、和気あいあいと過ごせる楽しいところになっていました。その活動が積み重なっていくことで、やがて、企業が考えるようになってくれる。例えば、アレルギーの問題などは、企業が研究所を作ってくれるようになる。積み重ねることで、社会を変えることができるのも、原動力に繋がったと思います。



くらしフェスタむさしので発表する後藤さん

■吉崎 最後に、それぞれの活動の中で、気になっていること、感じていることなどを教えてください。

■菊地 消費連も高齢化していて、若い世代が入ってこないという問題があります。

一方、気候変動は大きな問題で、私たちの消費に関係し、すでに穀物の取れ方が変わってきています。食糧自給率が37%で、輸入に頼っている日本は、海外での農作物の不作や価格の高騰などによって供給に問題が出てきます。

お金だけ出せば何でも買える時代は終わると思うので、こういう大きな問題を若い世代にも伝えていきたい。

若い世代が日常生活で活動していること、その中で感じることなどが、消費者問題や消費連の活動がうまく結びついていないと感じます。

問題意識を持って勉強していく、そして、声を上げていく大切さは日々感じています。

■後藤 地球温暖化の影響は、まず食から始まってくると思います。次の世代を守っていくためには、違った意味での消費者運動が必要になってくると思っています。

また、自然災害が増えてきているので、防災面を考えた時にも、近所同士がつながる必要があると思います。

■西上原 サイエンスクラブで指導していると、コロナ禍でオンライン授業が増えたせいか、自分から活発に発言する子どもが減ってきたように感じ、気になります。親も在宅ワークなどで、人と関わる時間が減り、親のコミュニティも必要だと感じています。

人権擁護委員として活動する中で、LGBT、感染症、外国人差別、SNSの危険性などについて、子どもたちに話をしますが、意外に子どもたちは真剣に考えていて、問題意識を持っていると感じています。その学びを発信できるような場があるといいと思います。

■吉崎 皆様お忙しい中、本日は貴重なお話をありがとうございました。

武蔵野市の消費者行政の主な出来事と青空市の沿革

西暦	和暦	青空市	武蔵野市の主な消費者行政、 青空市関連できごと等	国内情勢・消費者行政	団体数	来場者数
1966年	昭和41年					
1967年	昭和42年					
1968年	昭和43年			5月 消費者保護基本法公布		
1969年	昭和44年					
1970年	昭和45年			10月 国民生活センター設置		
1971年	昭和46年		ふじみ焼却場付近住民、ごみ搬入阻止			
1972年	昭和47年		富山県利賀村姉妹都市盟約	7月 都消費者センター武蔵野支所オープン		
1973年	昭和48年		1月 米軍施設グリーンパークが日本に返還 3月 清掃対策市民委員会発足 12/15武蔵野市消費者運動連絡会、結成	第一次オイルショック		
1974年	昭和49年		武蔵野市物価対策連絡会、物価対策特別委員会設置 5月 市内農産物直売運動開始（消費連） 10/24第1回生活用品交換会（消費連・商工会館ホール）			
1975年	昭和50年		修繕市開催（清掃対策市民委員会）			
1976年	昭和51年			6月 訪問販売法公布		
1977年	昭和52年			10月「合成洗剤から石けんに切り替えるための連絡会」を8つの婦人団体が結成		
1978年	昭和53年		高齢者事業団（現シルバー人材センター）が発足			
1979年	昭和54年		第1回消費生活展を吉祥寺ロンロン東地下街で開催（消費連）	第二次オイルショック		
1980年	昭和55年		8/18新市庁舎が完成 11月 ごみの最終処分場が羽村町に			
1981年	昭和56年	第1回青空市	11/22 第1回むさしの青空市開催		27団体	—
1982年	昭和57年	第2回青空市	農産物直売運動終了（消費連）		25団体	—
1983年	昭和58年	第3回青空市			31団体	—
1984年	昭和59年	第4回青空市	吉祥寺に武蔵野市消費者ルーム開設 武蔵野市消費者モニター制度開始 10月 クリーンセンター稼働開始		33団体	—
1985年	昭和60年	第5回青空市			41団体	—
1986年	昭和61年	第6回青空市			46団体	—
1987年	昭和62年	第7回青空市			55団体	—
1988年	昭和63年	第8回青空市	青空市での銭湯画開始		48団体	—
1989年	昭和64年	第9回青空市		4月 消費税導入	47団体	—
1990年	平成2年	第10回青空市		バブル経済崩壊	52団体	—
1991年	平成3年	第11回青空市	6月 牛乳パック回収始まる 9月 食用廃油回収始まる		51団体	—

西暦	和暦	青空市	武蔵野市の主な消費者行政、 青空市関連できごと等	国内情勢・消費者行政	団体数	来場者数
1992年	平成4年	第12回青空市	12月 廃棄物の抑制・再利用 と適正処理及びまちの美化に 関する条例公布		56団体	—
1993年	平成5年	第13回青空市	消費者運動連絡会20周年記念 式典開催		51団体	約40,000人
1994年	平成6年	第14回青空市	米穀事務、公衆浴場対策を商 工経済課へ移管 11月 ペットボトル、発泡スチ ロール製トレイ回収始まる	6月 製造物責任法（PL法） 公布	—	約15,000人
1995年	平成7年	第15回青空市		1月 阪神淡路大震災	61団体	—
1996年	平成8年	第16回青空市	10月 グリーン購入推進指針 を施行		—	約20,000人
1997年	平成9年	第17回青空市		4月 消費税3%から5%に 引き上げ 12月 京都議定書採択	—	約15,000人
1998年	平成10年	第18回青空市	生活用品交換会廃止（消費連）		—	約15,000人
1999年	平成11年	第19回青空市			—	約12,000人
2000年	平成12年	第20回青空市		5月 消費者契約法公布	80団体	約12,000人
2001年	平成13年	第21回青空市	消費者ルームを武蔵野商工会 館3階に移転		70団体	約12,000人
2002年	平成14年	第22回青空市			70団体	約13,000人
2003年	平成15年	第23回青空市	消費者運動連絡会30周年記念 式典開催。消費者ルームから 消費生活センターに名称変更		74団体	約13,000人
2004年	平成16年	第24回青空市	10月 家庭ごみ有料化・市内 全域での戸別収集開始	6月 消費者基本法公布	71団体	約13,000人
2005年	平成17年	第25回青空市			71団体	約12,000人
2006年	平成18年	第26回青空市			64団体	約11,000人
2007年	平成19年	第27回青空市	消費者モニター制度を「むさ しの消費者スクール」へ変更		58団体	約10,000人
2008年	平成20年	第28回青空市			59団体	約11,000人
2009年	平成21年	第29回青空市		9月 消費者庁、消費者委 員会設置	56団体	約13,000人
2010年	平成22年	第30回青空市			53団体	約15,000人
2011年	平成23年	第31回青空市	東日本大震災復興支援	3月 東日本大震災	52団体	約15,000人
2012年	平成24年	第32回青空市		8月 消費者教育の推進に 関する法律公布	50団体	約12,000人
2013年	平成25年	第33回青空市	消費者運動連絡会40周年記念 式典開催		58団体	約12,000人
2014年	平成26年	第34回青空市			57団体	約8,000人
2015年	平成27年	第35回青空市			56団体	約6,000人
2016年	平成28年	第36回青空市			59団体	約15,000人
2017年	平成29年	第37回青空市	新・武蔵野クリーンセンター 本稼働		58団体	約18,000人
2018年	平成30年	第38回青空市			59団体	約18,000人
2019年	平成31年 令和元年	第39回青空市			58団体	約18,000人
2020年	令和2年		第40回青空市中止 （新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため）			
2021年	令和3年		第40回青空市中止 （新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため）			

第39回 むさしの青空市

令和元年11月10日(日)

午前10時～午後3時
(雨天決行)

むさしの市民公園にて
(市役所南側)

《催し物ご案内》

① リサイクル・日用品コーナー

- ★ シルバー人材センターによるリサイクル家具などの販売
※大きい品物は市内に限り1個 600円(税込)で有料配達
- ★ 市民団体による日用品、衣類、食器、雑貨、本、玩具などのリサイクル品や小物の販売

② 修理・PRコーナー

- ★ 防災用品の展示および販売
- ★ 銭湯背景画の実演
- ★ 年賀ハガキ・記念切手の販売
- ★ 刑務所作業製品(石けん・乾麺)などの販売
- ★ 包丁研ぎ(1本500円): 先着170本、1人2本まで
- ★ 新品食器・タオルなどの販売
- ★ ルーマニアの紹介、明るい選挙、薬物乱用防止、納税、電気の安全、民生児童委員、高齢者支援事業、福祉公社事業などPR



③ たべものコーナー

- ★ 焼きとり、焼きそば、お汁粉、フランクフルト、赤飯、スリランカ料理、甘酒、パン、産直青果、中華まん、菓子、飲み物などの販売



④ 農産物コーナー

- ★ 無農薬野菜の販売



★ 友好都市物産コーナー

- ★ 友好都市の物産販売や観光PR
(岩魚塩焼き、ます寿司、おやき、くじらコロッケ、ひつつみ、カニ汁、米、餅、漬け物、玉こんにゃく煮、地酒、ビール、甘酒、りんご、みかん、レモン、その他農産物、水産加工品など)



富山県南砺市・長野県安曇野市・長野県川上村
千葉県南房総市・岩手県遠野市・新潟県長岡市
広島県大崎上島町・山形県酒田市・鳥取県岩美町

- ※ 場内は禁煙となっております。
- ※ 車での来場はご遠慮ください。

主催：むさしの青空市実行委員会・武蔵野市

《ステージプログラム》

10:00 開会宣言

10:02 会場案内・テント紹介・銭湯背景画の紹介

10:05 環境フェスタPR

10:15 キッズダンス(K-BOOST)

10:30 民謡 おぎや節他(富山県南砺市)

10:55 早池峰しし踊り(岩手県遠野市)

11:30 式典

12:20 アコースティックバンド(Academic BANANA)

12:40 フラダンス(オハナ・フラ)

12:55 ヒップホップダンス他(emotionS)

13:10 テーマパークダンス(Clover)

13:25 リズムでDANDAN! for キッズ
(健康づくり支援センター)

13:50 ヒップホップダンス(成蹊中学ダンス部)

14:10 サイリウムダンス(UNKNOWN)

14:25 フラダンス(ナード・レイ)

15:00 閉会のあいさつ

クリーンタイム



☆ その他

◎市役所北側駐輪スペースにて

品評会出品の市内産農産物展示・即売会

※ 展示は正午まで: 即売は午後1時から

◎市役所正面玄関脇にて

野菜の宝船 展示と宝分け

※ 宝分けは午後2時から

◎市役所1階ロビーにて

歯の無料健康診査 午前10時～午後3時

◎市役所正面玄関脇にて

くらしフェスタ二次展示

※ 9月に開催した消費生活展の二次展示

◎クリーンセンターにて

第12回むさしの環境フェスタ開催

※ 午前10時～午後3時



《捨てればごみ! 分ければ資源!》

◎『買い物袋(マイバック)皿・箸』の持参
にご協力ください!



◎ 会場に出たごみ・資源は、会場入口南北2か所にある
「ごみ回収所」で分別収集しています

[illegible]

第 39 回むさしの青空市開催要領

1 開催目的

- ① 省資源、省エネルギーを提唱する消費者運動の一環としてリサイクルやフリーマーケットの場を提供する。
- ② 安全、安心な商品の生産、流通、消費を促進するために、市内の農産物や友好都市の物産販売の場を提供する。
- ③ 消費者の権利の向上や消費者問題の研究、調査などに取り組む消費者団体や各種市民活動団体と市民の交流を深め、14 万市民の交流の場とする。
- ④ 参加団体から寄付金を募り、一部を復興支援金として、市民社会福祉協議会を通じて大震災等の被災地へ送金する。

2 日 時 令和元年 11 月 10 日（日）午前 10 時～午後 3 時（雨天決行）

3 会 場 むさしの市民公園（市役所南側）

4 主 催 第 39 回むさしの青空市実行委員会・武蔵野市

5 運 営 参加団体により構成される実行委員会で正副委員長、役員及び各コーナーの代表者を互選し運営する。

6 参加条件

- (1) 営利を目的とした参加でないこと。
- (2) 環境を考えるイベントとするため、青空市実行委員会の決定事項を厳守すること。
また、実行委員会は参加団体の重要な意思決定を行う会議なので毎回必ず参加すること。
- (3) 参加団体は会場内の環境美化、啓発のためクリーンスタッフまたはその他スタッフとして運営に参加すること。そのため、ごみや資源の回収場に当日 1 コマ（概ね 1 人 30 分程度）以上の協力をすること。
- (4) 飲食類を扱う参加団体は、保健所への出店届を提出すること。
- (5) 開催主旨を理解し、楽しい市民交流を心がけること。
- (6) 参加団体は、本部スタッフを除き、おおむね次のとおりとする。
 - ①市民で構成し環境に配慮する団体等。
 - ②市内の商業者により組織された団体。
 - ③市内を所管する官公署。
 - ④市民で組織するボランティア団体。
 - ⑤友好都市。
 - ⑥その他実行委員会が認めたもの。

* 参加団体が予定数を超えたときは、市関連団体・事務局団体等を除き抽選を行う。

7 寄付金

各参加団体から 5,000 円程度の寄付金を募り、むさしの青空市の運営費用の一部に充当する。また、残額については、市民社会福祉協議会を通じて、大震災等被災地へ復興支援の寄付を行う。

8 経費

青空市会場の設営（舞台、テントの設営等）の経費は市が負担するが、運営経費のうちごみ処分費、舞台関係経費その他に要する経費は参加団体の寄付金から充てる。

電気を使用する団体は、電気代の実費負担分として、使用する機器のワット数が 1KW 以上は 1,000 円、1KW 未満は 500 円を負担すること。

9 クリーン対策について

出店者はごみの減量とリサイクルに配慮し、食品等の販売に使用するトレイ等は、環境にやさしく、リサイクル出来るものを使用しその回収に努める。

なお、出店者は販売が終了しても午後 3 時以降まで必ず残り、クリーンボランティアとして協力すること。

10 事務局

青空市運営のため事務局を武蔵野市消費生活センターに置く
〒180-0004

武蔵野市吉祥寺本町 1-10-7 武蔵野商工会館 3 階

電 話 0422-21-2972

F A X 0422-51-5535

むさしの青空市 40 周年記念誌
～『もったいない』からはじまった。～

発行年月	令和4年3月
編集・発行	武蔵野市 市民部 産業振興課
所在地	〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-10-7 武蔵野商工会館 3 階 電話 0422-21-2972

市民のふれあいマーケット

むさしの青空市40周年記念誌



武蔵野市